

入退院センターでは入院から退院までを安全で安心に

過ごして頂くため入院前に各専門家がお手伝いをいたします。

医師

主治医と多職種スタッフが密に連携して入院準備から退院後の療養まで一貫した支援をいたします。

麻酔科医

患者さんの体調と手術に合わせ、体に負担の少ない手術中の全身管理（麻酔）の説明と準備を行います。

看護師

病歴や日常生活などについて伺います。入院・手術前の準備や入院生活のさまざまな説明をします。

メディカルソーシャルワーカー

退院調整看護師

入院中、退院後の療養についてのご相談、転院先や在宅療養サービスのご紹介をいたします。

薬剤師

服用している薬の確認と、手術・検査前に中止する薬の説明をします。

管理栄養士

安全で楽しみのある食事を提供するために、食物アレルギー等の食事相談に応じています。

理学療法士

作業療法士

言語聴覚士

日常生活動作などの確認を行い、医師の指示で、入院早期より適切なリハビリが提供できるよう準備します。

事務員

入院に関する手続きや費用などをわかりやすく説明いたします。



手術が決まったら歯科受診をしましょう

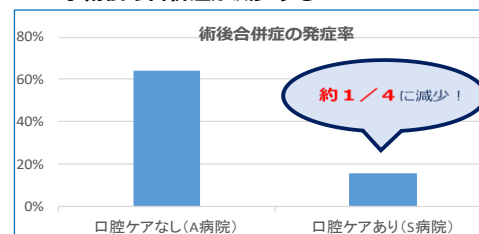
手術の前に歯科受診が必要な理由

お口の中には約100億個の細菌がいるといわれており、その多くが、歯の表面に付着する「歯垢」や「歯石(歯垢の固まり)」の中に潜んでいます。普段は悪さをしない細菌も手術を行うことで一時的に全身の抵抗力が弱まったとき、様々な合併症の原因となって、手術後の治りが悪くなることがあります。そのため手術前のお口のケアで「歯垢」や「歯石(歯垢の固まり)」をできる限り取り除いておくことが大切です。



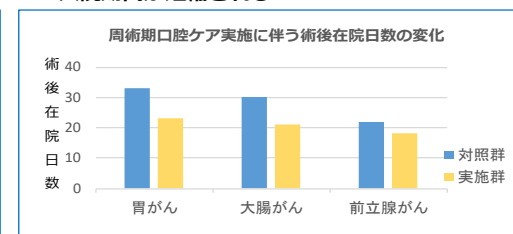
手術前のお口のケアによる効果

1. 手術後の合併症が減少する



日本歯科医師会「治療前からお口のケアのすすめ」より引用

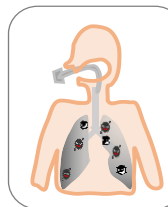
2. 入院期間が短縮される



日本歯科医師会「治療前からお口のケアのすすめ」より引用

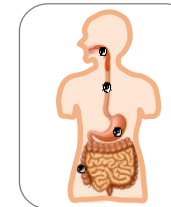
3. 術後の肺炎を予防する

全身麻酔時には口から気管まで管を入れて人工呼吸をします。管と共に細菌が気管や肺に入り、肺炎を起こす可能性があります。



4. 傷口からの感染を予防する

唾液共に飲み込んだ口腔内の細菌が手術部位を通過することにより、手術部位の感染を起こしやすくなり、治癒が遅れる可能性があります。



5. 麻酔時の歯科トラブルを予防できる

ぐらつく歯を放置すると、全身麻酔時に気管までチューブを入れる際に歯が抜けたり折れてしまうことがあります。折れた歯や抜けた歯が気管に入ってしまうこともあり、大変危険です。



術後の早期回復と合併症予防のために

歯科での検診・治療が円滑に行えるよう、歯科医院宛の紹介状も作成できます。お口の中に気になる症状がある方、歯科受診を予定する方は主治医・看護師へご相談ください。



手術前には禁煙しましょう！

タバコ煙の成分

日頃吸い込まれている

タバコ煙には
4700種類の化学物質が含まれており
70種類の発がん物質が入っています

タバコ煙の成分	身の周りの例
アンモニア	悪臭源、し尿
ホルムアルデヒド	シックハウスの原因、塗料
トルエン	シンナーの主成分
フェノール	消毒殺菌剤の主成分
ベンゼン	ガソリンの成分
シアン化水素	殺そ剤
カドミウム	電池、イタイイタイ病
一酸化炭素	車の排気ガス
ダイオキシン	ごみ焼却煙

喫煙による肺の肉眼的変化



正常



喫煙で汚れた肺

日本呼吸器学会より提供

喫煙の体への悪影響

タバコの煙が体に吸収されることで
様々な影響を受けます

- ▶ 体内の様々な細胞が傷む
- ▶ 免疫機能が低下
- ▶ 肺機能が低下
- ▶ 血の塊（血栓）ができやすい
- ▶ 気道の抵抗力の低下

喫煙が手術に与える悪影響

麻酔開始時に声帯がけいれんし呼吸停止となる頻度が増す

人工呼吸器の使用期間が長引く

肺機能の低下により合併症の頻度が高まる

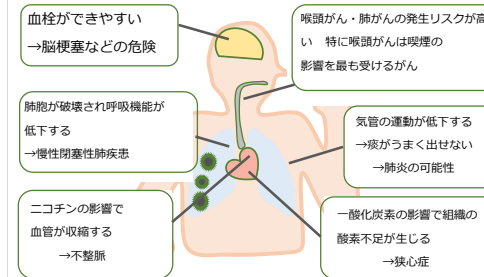
気管支に痰を貯留させ手術後の呼吸不全を起こしやすい

手術後の痛みに対する感受性になる

傷の治りが悪い
傷の感染を起こしやすい

術後の早期回復と合併症予防のために

喫煙は健康への危険因子



術後の合併症

喫煙者は非喫煙者に比べ

- ◆ 肺炎 2.09倍
- ◆ 心筋梗塞 1.80倍
- ◆ 脳卒中 1.73倍
- ◆ 創部感染 1.30倍

術後の合併症のリスクが上昇します

喫煙と手術後の合併症は密接に関わっています

手術前の禁煙期間を長くすれば1週間ごとに19%術後合併症が減少するといわれています

手術決定直後から禁煙しましょう

